

編集発行責任者 吉田 和彦

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

TEL:03-3603-2111 (代表)

URL:<http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/>

E-mail:aotokouhou@jikei.ac.jp

INDEX

01. 診療部長就任のご挨拶(皮膚科)
02. 診療部長就任のご挨拶(内視鏡部)、認定・専門看護師からのお知らせ
03. 診療部紹介(精神神経科)、CKDシールのご紹介
04. 慈恵医大葛飾医療センターは2人主治医制を進めています

..... 診療部長就任のご挨拶

●皮膚科



皮膚科
伊藤寿啓 診療部長

築

場広一前診療部長の後任として、2021年7月より当院皮膚科診療部長として着任いたしました伊藤寿啓(としひろ)です。乾癬を専門にしております。前任地は第三病院で、当院は、青戸病院時代に在籍して以来、22年ぶりの勤務となります。現在皮膚科には、私を含め8名が在籍しております。

皮膚疾患は、体の表面を覆っている最大の臓器である皮膚(毛髪、爪、粘膜含む)に生じますが、常に外的影響を受けることにより生じるもの、免疫が関係しているもの、皮膚以外の臓器など内的要因によるもの、心因的なもの、加齢変化によるもの等と様々です。

また、昨年よりCOVID-19感染症により、通年のマスク着用や手指消毒、洗顔や入浴回数増加が加わり、現在も感染予防のためにこれらを継続しなければいけない状況が続いております。その影響と思われる、顔面や手を中心とした皮膚症状が増加しています。しかし、症状が出てきてからも、外出・受診を控えていることにより、受診までの期間が長くなっている、それに伴い症状の悪化や治療期間

の延長する例も増えております。そのため症状が出てから、「そのうち治るであろう」と思わず、早めの受診をお勧めいたします。

一般皮膚疾患全般だけでなく、特に専門の乾癬についてもこれまで以上の力を入れていきます。また、地域の医療機関並びに必要なに応じて他科や他病院との連携を行いながら診療を行ってまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

診療部長就任のご挨拶

●内視鏡部



内視鏡部
豊泉 博史診療部長

2021年7月1日より、加藤正之診療部長の後任として当葛飾医療センター内視鏡部の診療部長を拝命いたしました。大学卒業後から15年間は埼玉県内で地域医療に携わり、その後14年間は東京慈恵会医科大学付属病院(本院)内視鏡科で従事してまいりました。

葛飾医療センター内視鏡部は現在4人の専門医を取得した内視鏡科医師が在籍しております。日々内視鏡科スタッフや消化器肝臓内科医師と共に、消化器疾患(食道・胃・大腸などの消化管疾患や胆道疾患など)に対する内視鏡検査・治療を行っております。

内視鏡に関連する消化器疾患は胃痛などの症状があることもあれば、便潜血などの症状なこともあり、早期に病気を発見し、治療することが重要です。特に早期食道がん、早期胃がん、早期大腸がんなどの一部は、今では外科的手術でなく、内視鏡治療で根治可能な病気になってきています。また、鎮静剤を使用した苦痛の少ない内視鏡診療を行っております。

これからも内視鏡科スタッフ一同、より質の高い医療の提供を目指し、地域の方々の健康な生活に寄与できるように診療にあたってまいります。お気軽にご相談してください。よろしくお願いいたします。

認定・専門看護師からのお知らせ

●こころの病気はめずらしいものではありません

精神科の病気というと、「なんだか別世界のもの」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、実はがんや糖尿病などと同様に、国民に広く関わる病気です。たとえば統合失調症は、100人に1人程度がかかると言われている病気ですし、うつ病は、仕事や出産をきっかけにして発症する方が多くいらっしゃいます。また、認知症や発達障害などはメディアで取り上げられることも多く、アルコール依存症は特にこのコロナ禍では問題となっています。このように、こころの病気というのは多岐にわたっています。そして、患者さんはこころの病気を抱えながら日々暮らしていますが、からだの病気になると、その治療のために入院が必要になることもあります。

●「こころ」と「からだ」はつながっている

また、こころの病気にかかったことのない方であっても、からだの病気になることで、こころが弱ってしまうこともしばしばあります。こころが弱ってしまうと、からだの治療がスムーズに進められなくなるといったことも生じてきます。「こころ」と「からだ」は、切り離して考えることができないのです。

●「こころ」と「からだ」をつなぐリエゾンナース

「リエゾン」とは、つなぐ、橋渡しをするという意味があります。リエゾンナースは、「こころ」と「からだ」をつなぐ役割や、医療者をつなぐ役割をもっており、病棟の看護師と協働しながら、患者さんの包括的で質の高いケアを提供することを目指しています。また、患者さんに良いケアを提供するためには、看護師自身のこころの健康も大切になりますので、看護師がいきいきと仕事ができるように、メンタルヘルス支援を行っています。

●精神科リエゾンチーム

葛飾医療センターでは精神科の病床はありませんが、精神科医、公認心理師、リエゾンナースをメンバーとした「精神科リエゾンチーム」があり、入院中の患者さんがスムーズにからだの治療を行えるように、こころのサポートを行っています。

●精神看護専門看護師(リエゾンナース)
高木 明子

診療部紹介

●精神神経科

伊藤洋大学参与、山寺亘診療部長の他、5名の常勤医師、4名の非常勤医師、常勤の公認心理師1名の体制で、各種精神疾患、その他さまざまな心の問題に関する外来診療を行っています。原則は、高校生（16歳）以上の患者さんを対象としています。数年間の平均として、初診患者さんの診断内訳は、神経症性障害30%、気分障害20%、睡眠障害15%、認知症性疾患10%などの順に構成されています。

特に、睡眠障害に関しては、睡眠医療専門医2名が担当しています。慢性の不眠症には、公認心理師による認知行動療法を施行しています。終夜睡眠ポリグラフ検査を用いた睡眠時無呼吸症候群に対する耳鼻咽喉・頭頸部外科との共同診療体制は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて一旦中断していましたが、近々再開する予定です。ナルコレプシーなどの中枢性過眠症の診断に必要なMultiple sleep latency test (MSLT)は、月1~2例実施可能です。

精神神経科の入院設備はありません。ただし、入院治療が必要な患者さんには、近隣の関連施設へ紹介し、軽快退院後には、引き続き経過観察させていただいています。地域と密着した円滑な医療連携を、常に心掛けています。

入院患者さんの精神的問題に対する精神科リエゾン活動を積極的に実施して、安心・安全な入院生活を送ることができるように援助しています。そして、がん患者さんに対する緩和医療および認知症患者さんに対するケア医療に参加しています。これらには、当院常勤の精神科専門看護師、緩和ケア認定看護師、認知症認定看護師をはじめとして、薬剤師、理学療法士、社会福祉士、栄養士など、多職種との緊密な協働が欠かせません。院内多職種によるチーム医療において、精神神経科が果たす役割は非常に大きく、責任の重さを実感しています。

精神神経科外来医療の数は、ずいぶんと低くなってきました。是非、お気軽に受診していただけますと幸いです。

●精神神経科 診療部長 山寺 亘

CKDシールのご紹介

葛飾医療センターで新たに開始した腎機能障害患者さんに対する取り組みである、お薬手帳貼付用のCKDシールについてご紹介させていただきます。CKDとは慢性腎臓病の英名Chronic Kidney Diseaseの頭文字をとった略称です。日本におけるCKD患者数は高齢化の影響もあり約1330万人にのぼり、20歳以上の成人の約8人に1人に及ぶとされています。腎機能の低下は生命予後への影響はもちろん、自覚症状や塩分制限などからくる生活の質の低下が患者さんにとって非常に大きな負担となります。更には、患者数の増加に伴う医療費への影響や、意図せず起きてしまう薬剤による有害事象（中毒性副作用や薬剤性腎障害など）の発生も見逃せません。こういった問題を起こさないために、腎臓・高血圧内科と連携し、2021年3月よりCKDシールの運用を開始しました。

CKDシールの目的

- ①患者さん自身が治療に参画できるよう動機づけを行う
- ②適切な薬物療法を行うために、腎機能障害の程度を可視化する
- ③CKDの重症化を予防する

CKDシール

シールは腎機能に応じて次の3種類を作成

- ①中等度腎機能障害患者さん (eGFR30-45mL/min/1.73m²)
- ②高度腎機能障害患者さん (eGFR<30mL/min/1.73m²)
- ③血液透析/腹膜透析導入患者さん

現在は入院患者さんのみを貼付対象としておりますが、今後は状況を見て外来患者さんにも拡大したいと考えております。また、地域の医療機関におきましてCKD患者さんへの薬物療法支援に使用される場合、シールイラストの提供は可能です。薬剤部医薬品情報室までお問い合わせください。葛飾医療センター薬剤部は、適切な薬物療法の実施を通して、より良い医療に貢献すべく日々精進してまいりますので、今後ともよろしく願い致します。

●薬剤部 課長 勝俣 はるみ



慈恵医大葛飾医療センターは 2人主治医制を進めています

～地域のかかりつけ医と慈恵医大葛飾医療センターの医師があなたの主治医です～
「2人主治医制」とは、患者さんを中心として、地域のかかりつけ医と当院の医師が互いに連携し、共同で継続的に治療を行うことです。

かかりつけ医



- ・初期治療
- ・日頃の健康管理
- ・慢性的な病気の治療
- ・経過の観察、普段の診察

紹介

(診療情報提供書)



逆紹介

(診療情報提供書)

葛飾医療センター



- ・高度かつ専門的な検査・治療
- ・入院を要する治療・検査・手術
- ・病状が急変した時の救急医療

- 患者さんがお住まいの地域のかかりつけ医と葛飾医療センターの医師と2人で主治医となります。
2人の主治医が紹介状(診療情報提供書)等で患者さんの病状や治療経過などの情報を共有します。
- 当院での治療が落ち着いたら、再び地域のかかりつけ医や医療機関で治療を継続します。
- 緊急時や詳しい検査などが必要となった場合は、速やかにかかりつけ医から葛飾医療センターに紹介をいただきます。

かかりつけの先生からも患者さんへ「2人主治医制」について
ご説明いただきますと幸いです。